

# かまにし

発行 地域力推進蒲田西地区委員会  
編集 地域情報紙編集委員会

第87号

わがまちの顔

多様な趣味を活かした活動

須山尚子さん



須山尚子さんにお会いしたのは、梅雨の晴れ間、少しムシムシする本年七月六日一時頃、西蒲田のご自宅兼店舗（須山ガラス建材）でした。お店は蒲田駅から近く、便利で静かな場所にあります。

昭和二十九年、三鷹の生まれで、三十一歳で結婚するまでそこに居られました。都立国分寺高校、東洋女子短大を卒業され、高校では剣道二段を取得（袴の扱いには自信があるそうです）。また、短大ではバンドをやっていました（ピアノ、ギターを担当）。三歳から日本舞踊を習い、阿波踊りに参加されたり、東京少年少女合唱隊に所属されるなど、忙しい毎日を送っていたそうです。

七歳年上の夫とは、八月に見合  
いし、一二月に結婚、新婚旅行は  
夫の好きなラグビーで有名なニュ  
ージーランドに行ったそうです。  
結婚七年目に娘を授かり、その後  
息子にも恵まれ、充実した暮らし  
を送っています。普段は夫の仕事  
を支え、日々生産される新しい材  
料や、工法に対応する為、特にI  
T部分のサポートをされています。  
また接客や工事作業の手伝い等仕  
事の要となっています。

蒲田西口町会では、婦人部部長  
として町会活動にも進んで積極的  
に参加され、七月末に行われる神  
社の例大祭での盆踊りが今から樂  
しみにされているそうです。

趣味では、結婚一二年後に夫か  
ら詩吟を習い始めました。詩吟と  
は、いわゆる歌のように詩文をリ  
ズム、メロディに乗せて歌うので  
はなく、詩文の素読（朗読）を基  
本とし、素読の後に特有のメロデ  
イ（節調という）を加えることで、  
より効果的に詩情を表現します。  
詩吟がその吟詠の対象とするのは、

その歴史的経緯から主として漢詩  
ですが、和歌や俳句、新体詩を吟  
ずることも少なくありません。た  
だし、あまり長いものは好まれず、  
漢詩の吟詠であっても七言絶句が  
一般的です。現在は教授師範とな  
り、北青山に教場をもつほどにな  
りました。

また五年前に夫の先生から琵琶  
も習い始めました。今は琵琶に夢  
中だそうです。ここ数年は、相生  
小学校で読み聞かせのボランティア  
活動に参加されたり、夏休みの  
わくわくスクールで、琵琶と詩吟  
と盆踊りを教えるなど、趣味を活  
かした活動を行なっています。

これからの夢として、詩吟と琵  
琶の良さを多くの人に伝えていき  
たいと尚さんは語ります。また  
七月三〇日に行われた、第六一回  
大田区民詩吟コンクール大会にお  
いて、優勝されました。



（取材 下山委員・青木委員）

# 活躍する、地域の子供たち

## 地域との連携・道塚小学校

### コミュニティスクール

#### (学校運営協議会制度)

学校と地域住民が力を合わせ、子供たちのよりよい環境作りに取り組む制度が法律により規定されました。学校と地域が一体となつて「特色のある学校」を目指し令和三年度にモデル事業実施校に道塚小学校が選ばれました。

令和四年度から本格活動となり、校長をはじめ教職員、自治会長をはじめ地域住民や保護者十数名の運営協議委員で構成されています。令和四年度は第一回の会議から六回開催されました。

令和五年度第一回の会議では委員から「授業の中で地域に関する体験をする」「学校から情報発信があれば地域としてはできることを手伝う」等多くの意見が出されました。六月一七日(土)には開校八五周年を記念して道徳授業地区公開講座を開催し、小学四〜六年生を対象に運営協議委員が「学校や地域でできることや道塚の歴史」等の話をされました。六年一組では道塚自治会会長の横山さんが担当され、生徒からの感想とし

て多くの児童が「道塚八五プロジェクトで街のゆるキャラ作り、行事の手伝い、ごみ拾い、防災訓練等を考えたい」と大変頼もしい児童目線からの意見が寄せられるとともに大変感謝されました。今後についても自治会として地域とともに歩む学校づくりに尽力・協力してまいります。



道徳授業地区公開講座の様子

### ポスターの作成

児童たちや地域の皆さんとの触れ合いの強化のため、道塚小学校と自治会との話し合いの中から小学三年生がポスターを作成することが決まりました。テーマは、「交通安全」「防犯」「熱中症」

「いきちかクラブ」等です。このポスターを一定の期間、自治会の掲示板に掲示します。

児童の目線から作成することにより、児童の意識を高め、地域にとつては交通安全などの啓発に大変役立っています。また、公園の花壇整理に取り組んでいる紹介などを通じて同志を募る等広報していただいています。北村先生をはじめ指導していただいている先生からは「児童として町への着目や保護者も町に更なる関心を持つようになつてほしい」と地域の活性化につながるお言葉をいただきました。



熱中症のポスター

### 新施設の

#### イメージキャラクター作成

令和四年五月五日旧区民センター跡地に新たな地域コミュニティの拠点として新蒲田一丁目複合施設「カムカム新蒲田」が開館しました。施設からの要請により小学三年生が「イメージキャラクター

」の絵を作成してくれました。大変かわいく、中にはキャラクターの由来を描いていただいた作品もあり全体的に工夫の跡がうかがえました。また、絵にもとづくかわいいうちバッチを施設側で作っていただきました。

世代間交流を促し、地域力向上のための「第一回カムカム新蒲田マリーゴールド祭り」や六月五日からは施設内で十数点が展示されました。

新施設の周知や地域の盛り上げに大いに貢献していただいております。

#### 右下の説明文

カム生ムウエルは、カムカムウエルという名前です。カムカムウエルは、カムカムウエルという名前です。カムカムウエルは、カムカムウエルという名前です。

名前の由来は、カムカム新蒲田の「カム」から「カムカム」として、カムカムです。



(左)カムウエル  
(右)カムニュー

## ダンス全国大会で優勝

### 将来は振付師

小学五年生の小倉彩夏さんは小学三年生時に「オールジャパンスーパーキッズダンスコンテスト」にチーム「SPORT」として優勝しました。

この大会は、全国最大規模の大会で約三〇地区の予選を勝ち抜いたわずか七チームでファイナルを競い、その中から優勝チームが決まります。ダンスを始めたのは、道塚幼稚園の年中さんのときでした。その後、ヒップホップダンスが好きになり、大田区、世田谷区を中心に活動しているSTREET DANCE COMMODITYに入会し、週一回のレッスンから週三〜四回になり、コンテストチームに入ることを目標に掲げました。練習を重ね目標を果たしコンテストチームの一員になることができました。スーパーキッズダンスコンテストではファイナリスト七チームに残り、最終的に優勝することができました。また、二〇二一年度は一八回の大会に出場し、予選を含め一五回優勝、他三回も入賞することができ、世界大会にも挑戦し予選三位で通過す

るなど輝かしい成績を残すことができました。二〇二二年度はAnnaとしてソロコンテストにも挑戦し、自分で振り付けをしました。将来の夢は「ダンスの振付師になることです」と語ってくれました。

学校では、体育が好きで、また、休日には友達と買い物や遊園地に行くことが好きとのことでした。取材時には、緊張していたのかダンスの身のこなしが想像できず、ダンスのスイッチが入ると全く別の少女に変身することだと想像しました。夢の実現に向け頑張ってください。



優勝した小倉彩夏さん

### 全国大会で優勝

#### 夢はオリンピック出場

小学五年生の坂本凜さんは、小学三年生の時JOCジュニアオリンピック二〇二二全日本ジュニアスキー大会スノーボードハーフ

パイプで優勝しました。また、小学四年生時は四〜六年生部門で最年少ながら三位となり、昨年度と同様大変すばらしい成績を上げることができました。

ハーフパイプとは、半円筒状の雪上をジャンプやターン、宙返りなどの技を決め得点を競う競技です。一九九八年に開催された長野オリンピックから正式種目となりました。二〇二二北京オリンピックでは、平野歩夢選手が金メダルを獲得しています。

ハーフパイプを始めたきっかけは小学三年生の時友達に勧められ本格的にコーチに教えていただくようになりました。小さい時から家族でスノーボードを楽しんでいたことから、基礎ができていて短時間で好成绩につながりました。冬の競技なので練習環境は限られています。夏は室内でハーフパイプのある山梨県まで行き集中して行い、家ではどうしたら上手になれるかストレッチやトランポリンで鍛えているそうです。得意技は、「スイッチドロップインからのC A B 3 6 0」「F S 5 4 0【フロントサイドファイブフォティー】」との大技です。将来の夢は「オリンピック選手になることです」と笑顔で話してくれてとても印象に残りました。国内強化

選手のセレクションに挑戦するそうです。学校では、体育が好きで、息抜きは普通の少女に戻り妹とスマホゲームで楽しんでいるそうです。最後に、もっと上手になりたいと目を輝かせて話してくれました。

(取材 横山・伴野委員)



坂本凜さんの練習風景



取材時の写真

(左)小倉彩夏さん

(右)坂本凜さん

# 「ご存じですか？」 百年前の人気料理

本号の発行日、九月一日は防災の日で、百年前の一九二二（大正一一）年九月一日に起きた関東大震災に由来しています。この震災で十万人以上の死者、行方不明者が発生し一九八二年に「防災の日」と制定され、毎年九月一日が「防災の日」、この日を含む一週間が「防災週間」となっています。今回は「百年前の人気料理」についてお話ししましょう。

**大正の三大洋食とは**  
・カツレツ（トンカツ）  
・カレーライス（ライスカレー）  
・コロッケ  
と言われています。



大正の三大洋食

カレーという言葉は江戸時代に日本に伝えたのは福沢諭吉さんでインドの肉煮込料理がイギリスでカレーになりました。明治五年に「西洋料理指南」掲載、明治二〇年代にじゃがいも、タマネギ、ニンジン、ラッキョウ、福神漬を加え日本独特の料理となります。カレーソースとご飯が別々のライスカレーからご飯にカレーソースをかけるようになった明治末にカレーライスと名前も変わり大正一二年に国産カレー粉も登場します。

大正時代に「コロッケの唄」が流行するコロッケの原型はフランス料理クロケットで付け合わせに使われていましたが、明治三〇年代に日本に伝わり大正時代に大流行します。日本ではキャベツの千切りを付け合わせにしてソースをかけて食べる主菜となりました。肉を油で炒め焼きしたフランス料理コートのレットは日本風に改良され、てんぷらのように油で揚げられるカツレツとなり箸だけで食べられるよう事前にカットしたトンカツになりました。明治二八年にカツレツ、大正期にカツカレー、昭和四年にトンカツが登場します。これらの洋食は明治維新以降に流入してきた西欧料理を日本人の食習慣に合わせようとした多くの先輩方の試行錯誤の結晶です。関東大震災後、庶民が気軽に利

用する外食店・蕎麦屋がカツ丼やカレーライスを出すようになり蕎麦屋の洋食と人気を集めます。蒲田五丁目の増田屋さん（明治四一年創業）の豊富なメニューにも洋食が・蒲田ですが応援します。（取材 近藤委員・大良委員）

## 令和五・六年度 『かまにし17』編集委員

- 西蒲田一丁目町会 中田澄子・斉藤由美
- 西蒲田二・三丁目自治会 平塚宜信
- 西蒲田四丁目町会 井部宇三郎・池貝雅江
- 西蒲田女塚町会 青木陽二
- 西蒲田六丁目自治会 伊藤多佳子・深井英明
- 蒲田西口町会 柳通勝磨
- 西蒲田七丁目御園町会 下山恵美子
- 西蒲田八丁目町会 神尾俊昭
- 御園自治会 大友康廣
- 新蒲田一丁目自治会 伊藤孝一
- 東矢口一丁目町会 湯澤喜久雄

### 蒲田西特別出張所管内

人口	男	32,479人
	女	30,120人
	計	62,599人
世帯	37,256世帯	

令和5年8月1日現在

「かまにし17」でウェブ検索するとカラー版を見ることができますよ！

「かまにし17」をお読みいただき、ありがとうございます。情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などございましたら、お気軽に事務局までお寄せください。  
事務局 蒲田西特別出張所  
大田区西蒲田七-1-1  
電話 3732・4785

- 小林自治会 佐藤悦子・北村悦子
- 安方北町会 高橋晴美・近藤邦子
- 安方南町会 大良美臣・岡和雄
- 多摩川二丁目町会 原哲夫
- 道塚自治会 横山智恵子・伴野正弘
- 事務局（蒲田西特別出張所） 小林真也・小川泰輝